

=市史編さん便り= 【50号】 令和4年12月20日(火) 発行.

\*\*\*\*\*土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

## ◎『新市史(資料編)』学校資料部分に関わる

### 『学校日誌』部分をデータ保存のため撮影する！

先日12月19日(月)、高知市から市史調査協力員3名を含む6名の方々が『新市史(資料編)』の学校資料に関わる資料保存と調査のために朝早くからお越しいただきました。お越しいただいたのは、次の方々です。

市史調査協力員 楠瀬慶太氏(高知新聞記者) 高木翔太氏(高知城博学芸員)  
水松啓太氏(高知城博学芸員)  
その他の方々 伊藤嘉高氏(高知の声と点字の図書館職員)  
汲田美砂氏(自由民権記念館学芸員)  
谷口 綾氏(高知大学人文学部1年学生)

高知市を高木さんと水松さんが運転する2台の自家用車に同乗し、朝5時半に出発したそうです。前日の朝は、高知自動車道も凍結により通行止めになっていたため、到着する朝は、大丈夫だろうかと心配しました。道路の凍結もなく、2台とも無事に土佐清水市に到着して一安心しました。

作業の内容は、2班に分かれ、『新市史(資料編)』「学校資料」のデータ保存と執筆に活用するため、デジカメにて撮影を行った。楠瀬・水松・汲田・谷口の各氏は下川口小で、高木・伊藤の各氏は、市史編さん室田村・吉本と合流し、足摺岬小で撮影を行った。

両校とも、明治終わりから現在までの貴重な『学校日誌』が現存しており、撮影する頁数も多く、皆さん黙々と集中して作業を進めていきました。

下川口小の永野校長先生、足摺岬小の平林校長先生、作業しやすいように細々のご配慮いただき、本当にありがとうございました。



↑ 足摺岬小での『学校日誌』の撮影

また、楠瀬慶太氏には、中浜小2階の学校資料所蔵スペースにおいてロガーやトラップを設置する等、保存環境について幾つかのアドバイスをいただきました。今後、遮光カーテンやスチール製の棚の設置、中性紙保存箱の購入等を計画しております。

加えて、楠瀬慶太氏は高知大学の学生さんや若手の学芸員さんに資料写真の撮影方法、

資料のクリーニング、保存用具（中性紙簿用紙・中性紙封筒等）の使い方等を丁寧に教示し、実践を通じて文化財保護の若手の育成を行っています。これは大変重要な取り組みだと思います。土佐清水市をフィールドにこのような人材育成の場としていただけることに感謝。

## ○『日本一鑑』における「夷海右道」・・・

### —東アジアの中の国際貿易港・土佐清水—

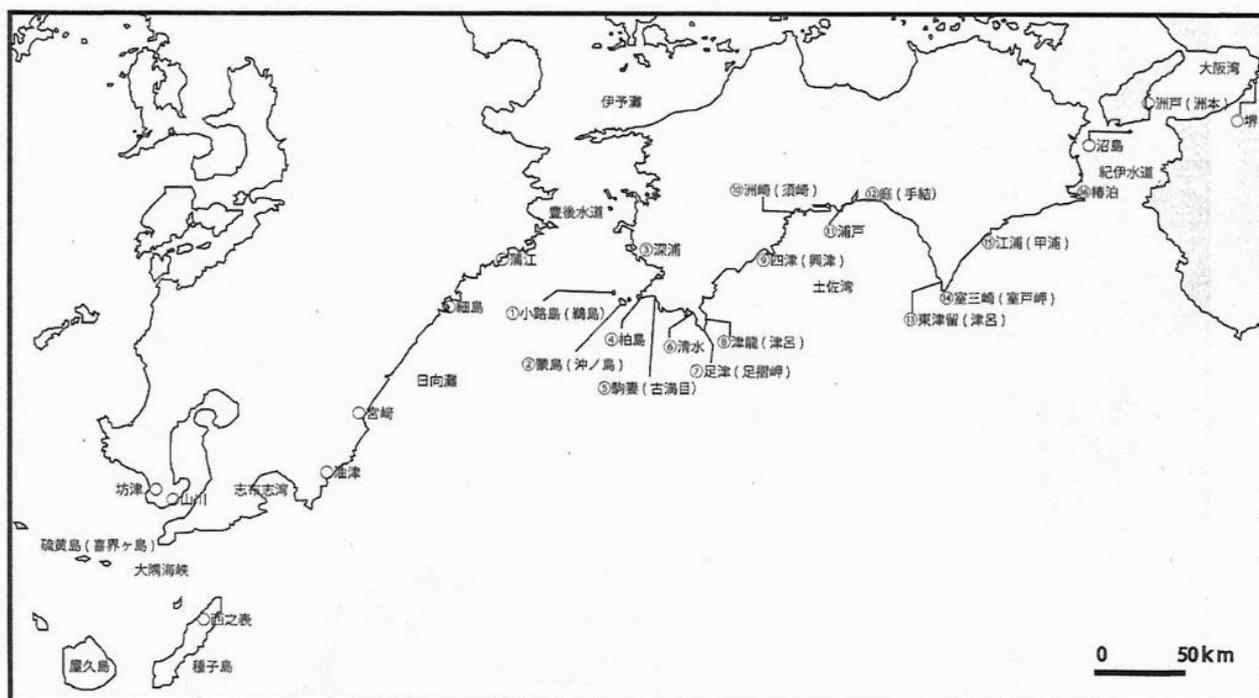


図 『日本一鑑』夷海右道における土佐湾岸海路の主要な港及び通過点（島・岬）

(1)本図は那波利貞(1937), 神田輝夫(1980), 秋澤繁(2001)の研究を基本的に踏襲し, これに加筆修正して田村(2018)の研究を加え, 加筆修正したものである。

(2)当時は, 小路島(鵜島)や蒙島(沖ノ島)の一部は, 伊予国に属していたが, 四国内の交通状況の流れから土佐湾岸航路として捉える。

(3)樺泊は, 阿波国領であるが, (2)と同じ理由から土佐湾岸海路として捉える。

明代末期に活躍した鄭舜功(ていしゅんこう)は, 浙江省総督・楊宣より倭寇対応を日本に依頼することと, それに伴う日本探索の指令を受け, 日本に向かった。台湾・琉球を経て豊後国に到着し, 大友宗麟に幽閉されて臼杵に滞在した。幽閉が解かれ, 明国帰国後に政変が勃発して, それに連座した咎(とが)で四川に配流された。その後、苦勞して『日本一鑑』を著したのである。

この『日本一鑑』には, 明国(中国)華南・東南アジア・琉球→薩摩国山川→豊後水道→土佐国島嶼部→土佐湾岸→室戸岬→紀伊水道→紀淡海峡→和泉国堺の航路、「夷海右道」が示されている。この航路は瀬戸内海航路が本線であるとすれば, 一つの支線といえる。しかし, 東アジアや南方方面と堺を結ぶ重要な国際航路の一つであった。

土佐清水は, この航路における重要な港の一つとして位置づけられていた。土佐一条氏の外戚としてこの頃に活躍した海の領主加久見氏が現在の土佐清水市加久見地区に居館を置き, 活躍している。香仏寺にある六甲(兵庫県)から取り寄せたと思われる巨大な御影石

の五輪の残欠はその勢力の強大さを物語っている。また、加久見地区字矢熊に位置する泉慶院跡(せんけいいんあと)に残る和泉砂岩製の一石五輪は、搬入品や石材を輸送して現地の石工が加工したとみられる物が数多く残存している。これらは和泉国堺との「夷海右道」航路上の交易を通じての深い結びつきを示す状況証拠である。



↑ 加久見香仏寺境内に林立する御影石の五輪塔群



↑ 泉慶院跡(字矢熊)の石仏



↑ 加久見地区で出土した青磁碗片



↑ 加久見地区で出土した銅銭片

◎現在、堺市博物館学芸課推進係長・海邊博史氏(博士)を中心に加久見地区や大岐地区を中心にした一石五輪等の中世石造物調査を実施しており、その調査結果も楽しみです。

### 〈編集後記〉

18日(日)午前中、土佐清水市人権フェスティバルが開催され、参加した。講師は1994年に起きた松本サリン事件の被害者であり、警察やマスコミから犯人扱いされ、著しい人権侵害を受けた河野義行さんの講演だった。

警察やマスコミからの執拗な容疑者扱い。1日50件以上の嫌がらせの無言電話。自らも被害者で発熱のある身でありながら、耐えることができたのは、意識不明の奥さんの存在だったと河野氏。人は弱い、孤立したときに人は潰れると。最後に自分を信じてくれる人がいると潰れないとも。たった一人でよいのでそんな人を持ってほしいと話を結んだ。確信のある一言一言が自分の心に落ちた。

かつてある先輩が言った「人権学習は、誰のために行うのか」と。人権学習を幾つになっても、自分のために学習していきたい。(田村)